

『魔法少女は気づかない』シリーズ

豚姦-精神汚染



魔物との戦いに敗北し、意識を失っていた魔法少女ミレーゼ。気がつくや彼女が豚小屋に捕らえられていた。彼女の背後には盛りついたオスの豚が一匹。ミレーゼに前足を乗せ、今にも交尾をはじめようとしていた。

なんでこんな場所に……!?

ビクッ

待って！豚と…なんて無理無理無理……！

貴方の交尾の相手は私じゃな――

そう彼女が言うやいなや、
豚はおもむろにペニスを
ミレーゼの膣に挿入した。

オオオオ！？

ド
ヌ
パ
パ
パ

おっ♡♡♡♡♡
なにこれ♡
む、無理♡♡♡♡♡

「このミレーゼは豚はおろか人と
交わったことなどなかったが、魔法少
女には性体験をより苦痛のない「よい
もの」にする様々なシステムが組み込
まれている。
たとえばそれが本来の人間には想像を
絶する痛みが伴うようなアブノーマル
なセックスであっても、膣内の強度と
柔軟性はブタのペニスが合うように拡
張され、快楽物質が大量に分泌される。
苦痛のない幸福な刺激へと変換される
のだ。」

だれかあ！だれか助けてえー！！

だれかあー！！
だれかああー！！



おねがい
もう帰して……

いつまで続くのこれ……

魔法少女は魔物や人間を性的に興奮させ性交をうながし、妖精郷に精力を集める疑似餌のような役割を持つ。理性なく欲に忠実な獣にとってもどうやらそれは変わらないらしい。
この豚はミレーゼのことをいたく気に入ったのか、一晩中ミレーゼのことを犯し倒した。

おうおうー
元気にヤツとった
みたいだな

まったくこんなに汚して…
すぐ拭いてやるからなあ

え、あの、
助けてくださって
ありが—

はっはっは、
そう慌てるな
ちゃんとごはんも
あるからなあ

えっ……？

豚に犯されてからどれくらい時間
が過ぎた後、豚小屋に飼育員の男
が現れたが様子がおかしい。
拘束を解いてくれたものの、会話
が一切噛み合わない。まるでミレー
ゼを豚として扱っているかのようだ
った。

うちのバカ息子がなあ、
魔法少女ミレーゼちゃん
とかいう子に夢中みたいでな

仕事もろくに手伝わんのよ
お前には悪いことしとるなあ

ミレーゼは、私です……！
お願い、話を聞いて……！

お前もそう思うか？
今度ガツンと言ってやるか！
はっはっは！

話も通じず、与えられた食事は豚の餌。
犯された影響なのか、脚に力がはいらず
立ち上がることもできない。拘束を解か
れても柵の外に出ることすらままならな
かった。

これじゃ私がまるで……

うまく動かない体を見知らぬ男性に世話をされ、コミュニケーションもとれず、与えられるのは動物の餌。毎日のように豚の交尾の相手をさせられる地獄のような日々を送っていたミレィゼだったが、そんなある日、豚小屋に思いもよらない客人が訪れる。

ここは…養豚場…？
ちょうど交尾の最中みたいね

魔物の反応がここで消えてる…
見たところ豚しか
いないみたいだけど…

あれは…私……？
なんで私が二人……？
私が…豚に見えてるの……？
私は…豚に……？
それとも最初から……？

己の分身を見て徐々に混濁する意識。
自分が何者なのか分からない。人間とし
ての暮らしの方が夢で、自分は最初から
豚だった気がしてならない。過去の記憶
も人間らしい思考力もどんどん薄れる。
そもそも仮にかつて人間だったとして、
今更元の生活に戻る気がしない。ただ
後ろから突き上げる激しい快感の波に身
を任せている方が、遥かに幸福に思えた。

人間が豚の子を
孕むわけない……
私はずっとなにか……
勘違いを……？

あ、また凄いの
くる……♡

チンポ好き♡
チンポ♡チンポ♡

よおー
竜去少女ミニーズ

かすかに聞こえる問答などもう彼女の
耳には入らない。ゆったりとぬるま湯の
ような快樂につかり、ミレーゼは人であ
ることを辞めていった。

あなたに……!?!?

ミレーゼが豚として、豚の孕み袋として生きることを受け入れるようになってほごない頃。"2人目のミレーゼ"もまた絶望的な危機に陥っていた。
養豚場に潜む魔物の気配の正体は、魔物と契約を結んだ少年だったのである。少年は異能を駆使しミレーゼをわがものとするのが狙いだったのだ。

やだあ！
離してよお！

オラァァ

お前の無様な姿が見れば満足かと思っただけだよ

やっぱ自分用の肉便器もほしいよなあ

俺の言うことは聞いたほうがいいぜ？
それともあっちの豚みたいになりたいか？

それだけはやめて
お願いい…………

フゴフゴ♡♡♡
ブヒッ♡
ブヒィィ♡♡♡♡

ミレーゼの呪いに気づいた少年は功名に震えを張り1人目を捕まえた。彼女を辱めるためだけに周囲の人の認識を歪ませ、ミレーゼをケダモノと交わらせたのだ。バックアップ能力のあるミレーゼであれば、同じ手口で何人でも捕らえることができる上、彼女らにもはや抵抗する術はない。
2人目に飽きれば豚の玩具にしてまた新しい娘を調達すればよい。少年の悪魔の所業は、どこまでも続く。

魔物との戦いに敗北し、意識を失っていた魔法少女ミレーゼ。気がつくと彼女は豚小屋に捕らえられていた。彼女の背後には盛りついたオスの豚が一匹。ミレーゼに前足を乗せ、今にも交尾をはじめようとしていた。

なんでこんな場所に……!?

待って! 豚と…なんて無理無理無理!!!!

貴方の交尾の相手は私じゃな——

ビクッ

そう彼女が言うやいなや、豚はおもむろにペニスをミレーゼの膣に挿入した。

ズ
ヌ
パ
パ
パ

“オオオオ”？

“おっ♡♡♡♡♡
なにこれ♡
む、無理♡♡♡♡♡”

「このミレーゼは豚はおろか人と
交わったことなどなかったが、魔法少
女には性体験をより苦痛のない、よい
ものにする様々なシステムが組み込
まれている。
たとえばそれが本来の人間には想像を
絶する痛みが伴うようなアブノーマル
なセックスであっても、膣内の強度と
柔軟性はブタのペニスに合うように拡
張され、快楽物質が大量に分泌される。
苦痛のない幸福な刺激へと変換される
のだ。」

だれかあ！だれか助けてえー！！



だれかあ！！
だれかああ！！

おねがい
もう帰して……

いつまで続くのこれ……

魔法少女は魔物や人間を性的に興奮させ性交をうながし、妖精郷に精力を集める疑似餌のような役割を持つ。理性なく欲に忠実な獣にとってもどうやらそれは変わらないらしい。

この豚はミレーゼのことをいたく気に入ったのか、一晩中ミレーゼのことを犯し倒した。















